

令和 3 年度決算に係る
定期監査資料

令和 4 年 5 月

鳥取県立精神保健福祉センター

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1 頁
3	職員の定員、現員調べ	1 頁
4	役付職員の調べ	1 頁
5	主な事業に関する調べ	2 頁
6	現金の取扱状況	8 頁
7	財産に関する調べ	8 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
8	財産の貸付及び使用許可調べ	10 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
9	借受不動産明細調べ	10 頁
10	職員駐車場の管理状況調べ	10 頁
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
11	寄附物件の受納状況調べ	10 頁
12	備品の処分状況調べ	10 頁
13	当該年度における事業の概要	11 頁
14	技術指導・技術援助の実施状況	11 頁
15	教育研修の実施状況	12 頁
16	広報普及状況	15 頁
17	精神保健福祉相談の受付状況	15 頁
18	新規所内相談の実施状況	15 頁
19	新規所外相談者の地域別状況	16 頁
20	新規電話相談の実施状況	16 頁
21	組織育成の状況	17 頁
22	自立支援医療（精神通院医療）・精神障害者保健福祉手帳交付判定の状況	17 頁
23	鳥取県精神医療審査会における審査状況	17 頁
24	主な施設の整備状況調べ	17 頁
○	意見、要望等	17 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

- (1) 指摘事項 該当なし
 (2) 監査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況 該当なし

3 職員の定員、現員調べ

（令和4年4月1日現在）

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	3.4.1現在	当該年度	3.4.1現在	当該年度	3.4.1現在	当該年度	3.4.1現在	
定員	6	6	4	4	0	0	10	10	
現員	6	(1) 7	3	3	0	0	9	(1) 10	
過不足(△)	0	1	△1	△1	0	0	△1	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	0	0	0	0	0	0	0	0	

4 役付職員の調べ

（令和4年5月1日現在）

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
福祉保健部理事監兼 所長兼地域支援課長	原田 豊	29	6	
次長兼こころの健康 増進課長	小島 紀代		1	
(併) 地域振興課長医長	植田 俊幸	15	6	本務 厚生病院医長
(兼) 課長補佐	池口 朋子		1	出納員 本務 東部地域振興事務 所課長補佐

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳															
		国庫支出金	起債	その他	一般財源												
自死対策推進事業（みんなで支え合う自死対策推進事業）	※																
※精神保健福祉センター運営費(6,283千円)により対応																	
将来ビジョン																	
令和新时代創生戦略	3	すべての人に健康と福祉を															
政策項目																	
<p>(概要)</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 自殺対策基本法では、自死対策は地方公共団体の責務であり、地域の状況に応じて取り組むこととされている。市町村及び各圏域保健所等（以下、市町村等）の自死対策の推進を図るため、専門的立場から技術的支援等を行った。若年層に対する取組みとして大学等で学生を支援する職員を対象に若者のメンタルヘルスに関する基礎知識の提供及び意見交換を行った。自死遺族支援についても遺族の気持ちを支えることを目的として、遺族同士が気持ちを分かち合える場を提供した。 <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p><自死対策情報センターの運営></p> <p>①人材育成研修会（以下、表のとおり開催）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日時</th> <td>令和4年3月14日（月）午前10時～11時30分 ※自治体向け相談対応職員オンライン研修の1つのテーマとして開催</td> <td>令和3年12月23日（木） 午後1時30分～3時30分</td> </tr> <tr> <th>対象</th> <td>市町村及び保健所保健師等</td> <td>県内の大学・専門学校及び関係機関</td> </tr> <tr> <th>受講者数</th> <td>9名</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <th>内容</th> <td>(1) 講義 「自死対策と、コロナ禍におけるメンタルヘルス」 精神保健福祉センター所長 (2) 質疑応答</td> <td>(1) 講義「コロナ禍における若年層のメンタルヘルスについて」 精神保健福祉センター所長 (2) 情報提供「鳥取における若者の自死対策支援事業について」 県健康政策課 (3) 意見交換「各学校での状況について」 ※事前アンケート結果含</td> </tr> </thead></table> <p>②情報収集・情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取県における自死に関する統計データを作成し、随時警察統計及び人口動態統計による自死者数状況をまとめた上、市町村等へ情報提供を行った。 <p>③関係機関のネットワーク強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年、各圏域保健所・本庁担当者をメンバーとした連絡調整会議（年3回）を開催しているが、R3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、3回のうち2回は書面配布にて対応。圏域ごとの取組状況・課題等を資料作成した上で、今後の自死対策の参考にしてもらうこと、また国の動向についての情報提供等を行った。 例年、各圏域保健所主催の自死対策担当者連絡会、相談窓口担当者連絡会に出席し、各機関の取組状況について情報収集、その場を活用して他圏域の自死対策及び国の自死対策の動向の情報提供や情報センターとしての助言を行っていたが、R3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、各保健所での開催は書面配布の対応となったため、資料作成の協力等を行った。 <p><技術的支援（主なもの）></p> <p>①各圏域保健所及び市町村への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 各圏域保健所主催の自死対策担当者連絡会等での助言（年2回） 日南町ネットワーク会議及び研修会（1回） こころの健康づくり連絡会（2回）及びこころの健康相談（5回） 						日時	令和4年3月14日（月）午前10時～11時30分 ※自治体向け相談対応職員オンライン研修の1つのテーマとして開催	令和3年12月23日（木） 午後1時30分～3時30分	対象	市町村及び保健所保健師等	県内の大学・専門学校及び関係機関	受講者数	9名	17名	内容	(1) 講義 「自死対策と、コロナ禍におけるメンタルヘルス」 精神保健福祉センター所長 (2) 質疑応答	(1) 講義「コロナ禍における若年層のメンタルヘルスについて」 精神保健福祉センター所長 (2) 情報提供「鳥取における若者の自死対策支援事業について」 県健康政策課 (3) 意見交換「各学校での状況について」 ※事前アンケート結果含
日時	令和4年3月14日（月）午前10時～11時30分 ※自治体向け相談対応職員オンライン研修の1つのテーマとして開催	令和3年12月23日（木） 午後1時30分～3時30分															
対象	市町村及び保健所保健師等	県内の大学・専門学校及び関係機関															
受講者数	9名	17名															
内容	(1) 講義 「自死対策と、コロナ禍におけるメンタルヘルス」 精神保健福祉センター所長 (2) 質疑応答	(1) 講義「コロナ禍における若年層のメンタルヘルスについて」 精神保健福祉センター所長 (2) 情報提供「鳥取における若者の自死対策支援事業について」 県健康政策課 (3) 意見交換「各学校での状況について」 ※事前アンケート結果含															

＜自死遺族支援＞※鳥取市及び米子市の協力を得て開催。

- ・「家族の集い」を鳥取及び米子の会場で年10回予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により2回は中止。

[参加者数] (単位:人、()は新規再掲)

鳥取 (延6人)	4月:1	6月:1	10月:2(1)	12月:1	2月:1
米子 (延9人)	5月:5(2)	7月:1	9月:新型コロナウイルスの影響により中止。	11月:3	3月:新型コロナウイルスの影響により中止。

イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・事業目的を達成するために前年度と比べて大きな改善点はないが、若年者の自死数は横ばいの状況が続いていることから昨年度と同様に自死予防対策を継続して推進していくよう、オンラインを活用する等のコロナ禍でもできる工夫をしながら圏域保健所等の関係機関に働きかけ・技術的助言を行った。

ウ 成果及び効果

- ① 人材育成研修として県内の大学等を対象に研修会及び意見交換を行ったところ、学校規模の違いや特徴はあるが、若者のメンタルヘルスに関する基本的な知識の共有やコロナ禍における各学校の学生の現状の情報共有をすることができた。オンライン開催により、これまで参加がなかった学校からの参加があったという成果もあった。
- ② 情報収集、情報提供として自死に関する統計(国・県・圏域・市町村ごと)を適宜、市町村・保健所等の関係機関へ情報提供することで、各圏域保健所、市町村ごとの自死対策事業の取組に反映・参考にされている。
- ③ コロナ禍で、例年通りの対面による連絡調整会議の開催は難しかったが、書面配布あるいはオンラインで開催をした。自死対策事業の実施状況や他圏域の状況を情報提供することで、保健所や市町村担当者の自死対策の振り返りと今後の対策を考える機会となっている。
- ④ 自死遺族の集いに参加した人の感想では、「以前から集いがあることは知っていたが参加するのに時間がかかった」「思い切って来てみてよかった」という声が聞かれることが多い。参加するまでに時間がかかっているケースもあるため継続して開催することは重要。また会1回に対する参加者は多くはないが、参加者はそれなりの想いを持って参加しており、設定している時間にあっという間になることが多い。現在の少人数の参加であることが、一人一人の話を大事に聴けることにつながっている。

エ 課題

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により例年どおり事業を進めることの難しさがあった。資料配布等の工夫をして事業を遂行したが、令和4年度も同様の工夫などが必要になると考えられる。
- ・これまでと同様に県の自死の動向と新型コロナウイルス感染症の影響についても状況をみながら自死対策を進めていく必要がある。
- ・自死予防対策の1つとし、これまで技術支援や情報提供を図ることを目的に研修会等を開催してきたが、市町村の担当者も数年毎に変わる等から継続的に基本的な技術支援はしていくことが必要。また住民にとって身近な相談窓口である市町村の相談対応そのものの技術向上が課題と考えられる市町村もあるため、そのような内容を盛り込んだ研修を開催していくことが必要と考える。
- ・自死予防対策の様々な取組により高齢者の自死者数は減少してきているが、若年層の自死者数は横ばいの状態が続いている。このような状況を踏まえ、若年層への自死予防対策を県内の大学や専門学校等と連携し研修会や事例検討等を行うことで、学生や生徒を直接支援している職員との連携と技術向上を図っていくことが必要と考える。
- ・自死遺族の集いについては、ウ 成果及び効果④に記載しているとおり、会1回に対する参加者は多くはないが、参加するまでにある程度の時間がかかっていることから継続して開催していくことが必要と考える。

事業名	決算(見込)額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
ひきこもり対策推進事業	※				
※精神保健福祉センター運営費(6,283千円)により対応					
将来ビジョン					
令和新時代創生戦略	3	すべての人に健康と福祉を			
政策項目					
(概要)					
ア 目的及び事業の実施状況					
(ア) 目的					
<ul style="list-style-type: none"> ・近年、ひきこもり者の高齢化、ひきこもり期間の長期化など、ますます背景が複雑困難化してきている。そのため、相談・支援機関が一層ひきこもり相談・支援への理解を深め、関係機関と連携を図りながら支援を行う必要がある。 ・本事業では、ひきこもりの相談・支援を行う関係機関と継続的に事例検討や情報共有を行うとともに、技術指導・援助を行い、支援者のスキルアップ及びひきこもり支援の充実を図ることを目的とする。 					
(イ) 事業の実施状況					
<p><ひきこもり職場体験事業等連絡会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則毎月第2木曜日 午前10時30分～正午 精神保健福祉センターにて開催 ・参加機関：とっとりひきこもり生活支援センター（県がNPO法人鳥取青少年ピアサポートに委託）、鳥取市保健所、中部・西部総合事務所県民福祉局、県健康政策課 ・但し、新型コロナウイルス感染症感染拡大等の影響のため、4月、7月は中止、8月は書面、5月、6月、9月は東部機関のみ参加、1月以降はオンラインにより開催した。 ・内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) ひきこもり職場体験事業利用ケースの状況報告・事例検討 (2) 各機関の新規・継続ケースについての事例検討 (3) 関係機関との情報交換 ・令和3年度は、実43名、延130件の事例検討を行った。 <p><技術指導(主なもの)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各圏域県民福祉局主催のひきこもり連絡会等での講義・助言等（中部：2回、西部：2回） ・各圏域保健所・県民福祉局主催のひきこもり家族教室での講義・助言等（年1～2回×3圏域）等 					
イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点					
<ul style="list-style-type: none"> ・各圏域で開催されている連絡会参加、ひきこもり職場体験事業等連絡会における情報共有等により、積極的に各市町村の支援状況について情報共有を行うなど引続き連携を図った。 ・ひきこもり職場体験事業等連絡会では、新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況にかかわらず開催できるようオンラインを活用した開催方法に変更した。 					
ウ 成果及び効果					
<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり職場体験事業等連絡会においては、ひきこもり職場体験事業の報告や、各機関のひきこもり相談の事例検討を行い、事例を通じた連携や適切な相談・支援を行うことができています。 ・また、同連絡会のほか、各圏域で開催されている連絡会参加等により、各機関のひきこもり支援関係事業の実施計画、実施状況について共有したり、各市町村の支援状況について把握したりしながら、県全体のひきこもり支援の充実を図ることができています。 					
エ 課題					
<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり相談・支援は、内容も複雑困難化しており、支援に長期間を要するケースも多く、継続的に事例検討を行っていく必要がある。 ・また、職場体験や社会参加支援だけでなく、地域での生活支援等がますます重要となっており、引き続き市町村等のひきこもり・福祉・障がい者支援担当課との連携を図っていく必要がある。 ・今後も個別の事例を通して、また各連絡会での事例検討や情報共有、技術指導を継続し、ひきこもり相談・支援を行う市町村、関係機関との連携、スキルアップを行っていく必要がある。 					

(単位：千円)

事業名	決算(見込)額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
アディクション関連事業	※				
	※精神保健福祉センター運営費(6,283千円)により対応				
将来ビジョン					
令和新時代創生戦略	3	すべての人に健康と福祉を			
政策項目					
(概要)					
ア 目的及び事業の実施状況					
(ア) 目的					
<p>アルコール・薬物・ギャンブル等のアディクション関連問題は、保健・医療・福祉の各機関はもとより職場・地域・家庭の中でもさまざまな課題を抱えている。各関係機関はそれぞれに対応しているが、一つの機関のみで対応することは難しく、他機関と協力して支援にあたるのが望ましい。当センターでは、鳥取県内での依存症対策支援強化として、アディクション関連問題の「発生」「進行」「再発の防止」の各段階に応じた取組を推進するため、関係機関との定例的な研究会の開催、ギャンブル問題を抱える方の回復支援のためのプログラムの実施、支援者のスキル向上を目的とした研修会の開催を行っている。</p>					
(イ) 事業の実施状況					
<p><東部地区アディクション関係者ネットワーク研究会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：東部地区の医療・保健・福祉、職域、教育、司法、警察、救急、消防、民間支援団体等アディクション関連問題の関係機関職員 ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、初回は参加人数を制限して当センター体育室で開催、他はオンライン開催とした。(年4回) ・内容：依存症に関する講義、活動報告、事例検討、意見及び情報交換など ・参加者：延77名(約20機関) 					
<p><SAT-G(鳥根ギャンブル障がい回復トレーニングプログラム)及びSAT-Gグループミーティング></p> <p>○SAT-G(鳥根ギャンブル障がい回復トレーニングプログラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：ギャンブル依存症に関する相談者。本人の希望を含め、実施の判断を行う。 ・内容：ギャンブル障がいにて特化した認知行動療法プログラム。ワークブックを用いて実施。(全5回) ・参加者：個別実施…延2回実施。参加者1名(令和3年度新規1名) 集団実施…なし(該当者なし) <p>○SAT-Gグループミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：SAT-G修了者(自由参加) ・内容：近況報告、希望や状況に応じた話題提供、プログラムのアンコールセッション等。(年3回) ・参加者：延3名 					
<p><SAT-G(鳥根ギャンブル障がい回復トレーニングプログラム)実施者向け向け研修会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象：保健所、市町村、関係医療機関のうち、今後SAT-Gの実施を予定、又は検討している機関。 ・令和3年6月11日開催。新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン開催とした。 ・内容：本プログラム開発者の佐藤寛志氏(鳥根県心と体の相談センター：精神保健福祉士)に講師を依頼し、講義(「ギャンブル障害の基礎知識」「SAT-Gの基礎知識」「SAT-Gの使い方」、動画視聴(架空事例を用いたロールプレイ動画の視聴、事例紹介)を実施。 ・参加者：10名(7機関) 					
イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点					
<ul style="list-style-type: none"> ・東部地区アディクション関係者ネットワーク研究会においては参加機関数が多く、またオンライン開催であることから、意見等を求めても自発的な発表が少ないため、各機関の発表時間を設定し、相互に情報共有を行うことで連携を図った。 					

ウ 成果及び効果

- ・ 東部地区アディクション関係者ネットワーク研究会においては、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催が中心となったが、例年通り、医療保健福祉従事者、司法関係（検察庁、刑務所、保護観察所など）、民間支援団体（ダルク、断酒会）など幅広い機関からの参加があった。担当者変更がある機関もあり、担当者との面識を得て、依存症に関する知識や情報、他機関の取組を把握できる機会となっている。また、各機関の発表時間を設けたところ、情報共有・意見交換も十分に行えた。
- ・ SAT-G（島根ギャンブル障がい回復トレーニングプログラム）実施者向け研修会においては、県内の支援者のスキル向上及びギャンブル等依存症対策支援の充実・強化を図ることができている。

エ 課題

- ・ 東部地区アディクション関係者ネットワーク研究会については、本来であれば東部地区の実態を把握し、また具体的な事例を通して各関係機関の取組状況を共有し、問題解決に向けて検討する会を目指したいが、アルコール、薬物、ギャンブルと幅広いテーマについて、1次予防から3次予防まで段階に応じて求められる支援が違ふこと、また、参集機関が広がり個人情報保護の観点から具体的な事例の検討が困難であることから、研修会の要素が強くなり、東部地区の実態を把握しづらい状況がある。引き続き、会の目的に沿った内容・運営の検討が必要である。
- ・ SAT-G（島根ギャンブル障がい回復トレーニングプログラム）及びSAT-Gグループミーティングについては、集団プログラムは該当者がなく実施していないが、客観的に自己の状況を整理し、ギャンブル問題と向き合う機会となる等の効果が期待できるものである。また、個別プログラムを終了した場合であっても、プログラム終了と同時に相談も終了となるケースが多い。ギャンブル依存症については、継続的な支援が効果的であり、個別プログラム修了者を対象に、グループミーティングの開催を継続することで、継続的な支援を図っていく必要がある。
- ・ SAT-G（島根ギャンブル障がい回復トレーニングプログラム）実施者向け研修会については、県全域から参加あり、次年度の研修受講希望も多かった。継続開催し、依存症関連問題支援者のスキル向上、支援体制強化を図っていく必要がある。

事業名	決算(見込)額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
精神障がい者地域移行・地域定着支援事業					
将来ビジョン					
令和新时代創生戦略	3	すべての人に健康と福祉を			
政策項目					
(概要)					
ア 目的及び事業の実施状況					
(ア) 目的					
精神障がい者の地域移行支援を行う人材の育成及び資質の向上を図ること等により、精神障がい者の地域移行・地域定着を推進するための支援を行う。					
(イ) 事業の実施状況					
研修会を開催し、人材育成を行った。					
○精神障がい者地域移行支援者研修会					
精神障がい者の地域移行・地域定着支援促進に必要な精神障がいや精神疾患に関する基礎知識や対応を学び、講義、事例や実践報告を通じて理解を深めるための研修を行った。(2日間 オンライン)					
【受講状況】					
名称	1日目 (R4. 2. 1)	2日目 (R4. 3. 11)	全日受講者数	修了証交付者数	
精神障がい者地域移行・地域定着支援関係者研修会	40名	31名	27名	23名	
○精神科訪問看護管理者・従事者研修会					
精神科病院の訪問看護部署と訪問看護事業所の実態調査を実施し現状把握を行い、現状の課題に沿った研修会を実施。(2日間 オンライン)					
【受講状況】					
名称	1日目 (R4. 1. 31)	2日目 (R4. 2. 19)			
精神科訪問看護管理者・従事者研修会	13名	7名			
イ 令和3年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点					
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度から、相談支援事業所の報酬に「精神障害者支援体制加算」を計上するには、本研修会の修了が必須となった。参加者の経験の幅が広いと、精神疾患等の基礎的な内容を押さえたうえで、事例や実践報告を通して支援の具体的なイメージを持っていただけるような内容とした。実践報告では、課題となっている多職種多機関連携について、モデル事業として先進的取り組みをしておられる医療機関からの報告を実施。また、ピアサポーターの活動について当事者による発表もを行い、県内の取組状況を把握する機会とした。 					
ウ 成果及び効果					
<ul style="list-style-type: none"> 精神障がい者支援に関わる機関が、講義、事例や実践報告等を通じて、精神障がい者への理解を深め、他機関の実践状況についての情報を得ることで、専門職としてのスキルアップに繋がっている。 					
エ 課題					
<ul style="list-style-type: none"> 精神障がい者が安定した地域生活を送るためには、多職種間での連携が必要であり、医療機関、施設、相談支援事業所、訪問看護ステーション、保健所、行政等広く関係機関から参加を募ったが、医療機関からの参加が殆ど無かった。相談支援事業所からは医療機関との連携が難しいとの課題が挙げられており、医療機関にも参加していただけるよう研修内容の工夫が必要と考えている。 精神科訪問看護研修会については、コロナ禍で現場対応が優先となり、研修参加が難しいとの声が多くあったため、1日目の講義内容について動画の事後配信を行い、業務の参考としていただいた。2日目の研修会では、毎年実施しているアンケート調査の結果を参考にし、現場の困り感に沿った事例の報告や意見交換を行った。現場の関わりを振り返りながら、学びに繋げることができた。 					

6 現金の取扱状況

(1) 現金取扱状況

(令和4年3月31日現在)

収入科目（節）	収入済額（円）	件数（件）	備 考
精神保健福祉センター 診断書等手数料	56,280円	103 件	診断書交付手数料
合 計	56,280円	103 件	

(2) つり銭の状況 該当なし

7 財産に関する調べ

(1) 公有財産

ア 土地 該当なし

イ 建物

(令和4年3月31日現在)

行政・普通 財産の 区 分	機関名又は 施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						本年度末		備考	
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減 別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登 記 年月日	面積 (㎡)	価額 (円)		
行政 財産	(内訳)		1013.41	208,485,849								1013.41	208,485,849	
					増加					H				
					減少					H				
計			1013.41	208,485,849							1013.41	208,485,849		

ウ 山林 該当なし

エ 動 産（船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機） 該当なし

オ 物 権 該当なし

カ 無体財産権（特許権、著作権、商標権、実用新案権等） 該当なし

キ 有価証券 該当なし

(2) 金券類の保有状況

ア 金券の保有状況

有 ・ 無

イ タクシーチケットの保有状況

(令和4年3月31日現在)

前年度末未使用枚数	本 年 度 中		本年度末未使用枚数
	購 入 枚 数	使用枚数及び金額	
138枚	0 枚	0 枚	138 枚
		0 円	

8 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物

ア 土地 該当なし

イ 建物

(令和4年3月31日現在)

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先 住所氏名	備考
							単価	本年度の貸付(使用)料		
行政財産	団体事務局	鳥取市江津318-1	3.3㎡	R3.4.1	H15.4.1	H3.4.1 ~R8.3.31	13,200	円	鳥取市江津318-1 鳥取県精神障害者家族会連合会	文書ID 20-00275436
								13,200		
計							月額・年額			
普通財産		該当なし								
計										

(2) 物品 該当なし

9 借受不動産明細調べ 該当なし

10 職員駐車場の管理状況調べ 該当なし

11 寄附物件の受納状況調べ 該当なし

12 備品の処分状況調べ 該当なし

1.3 当該年度における事業の概要

- (1) 自死対策推進事業（みんなで支え合う自死対策推進事業）（2頁に記載）
- (2) ひきこもり対策推進事業（4頁に記載）
- (3) アディクション関連事業（5頁に記載）
- (4) 精神障がい者地域移行・地域定着支援事業（7頁に記載）

1.4 技術指導・技術援助の実施状況

1) 関係機関別状況

(単位：回、人) (令和4年3月31日現在)

関係機関	保健所	市町村	福祉事務所	医療施設	社会福祉施設	母子生活支援施設	介護老人施設	障害者支援施設	教育	司法
回数	17	23	0	5	13	5	1	2	15	13
対象者延人員	250	233	0	101	344	5	40	54	78	15

関係機関	労働	警察	看護協会	看護学校	精神保健団体	一般	事業所	行政	その他	計
回数	5	1	0	15	2	0	0	79	41	237
対象者延人員	46	10	0	600	208	0	0	1630	1312	4926

2) 地域別状況

(単位：回、人) (令和4年3月31日現在)

区分	総数		相談		講演		会議		看護学校業務		家族教室		ボランティア講座		学生実習		視察見学		その他	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
鳥取市保健所管内	88	1030	54	129	6	94	10	191	15	600	3	16	0	0	0	0	0	0	0	0
倉吉保健所管内	11	136	2	6	2	18	4	97	0	0	2	10	0	0	0	0	0	0	1	5
米子保健所管内	23	355	11	63	3	117	4	146	0	0	1	7	2	2	1	15	0	0	1	5
全県	72	956	8	70	11	414	50	365	0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	2	100
県外	43	2449	1	20	24	1511	16	774	0	0	0	0	0	0	0	0	2	14	0	130
計	237	4926	76	288	46	2154	84	1573	15	600	7	40	2	2	1	15	2	14	4	240

15 教育研修の実施状況

(単位：人) (令和4年3月31日現在)

研修会・講習会等の名称	開催年月日	内容・講師	対象	場所	参加人員								計
					保健所	市町村	福祉事務所	医療施設	介護老人施設	障害者支援施設	社会福祉施設	その他	
精神保健福祉センター所内研修会	令和3年 5月19日 (水) 6月4日 (金) 計2回	■講義 ①精神疾患及び精神科の薬 ②相談の受け方、ゲーム依存 講師 精神保健福祉センター 所長 原田 豊	福祉相談センター、各児童相談所	ハイブリット形式	0	0	0	0	0	0	0	47	47
就労支援事業所等支援者研修会	令和3年 8月27日 (金)	■講義『統合失調症・気分障害等の疾病の理解』 講師 精神保健福祉センター 所長 原田 豊	就労関係事業所等職員	オンライン	0	0	0	0	0	59	0	5	64
就労支援事業所等支援者研修会	令和3年 9月10日 (金)	■講義『発達障がい理解～障がい特性とその対応』 講師 精神保健福祉センター 所長 原田 豊	就労関係事業所等職員	オンライン	0	0	0	0	0	40	0	5	45
精神科訪問看護管理者・従事者研修会	令和4年 1月31日 (月) 2月19日 (金)	■1月31日(月) ○精神科訪問看護アンケート報告(精神保健福祉センター精神保健福祉主任 田村 有希) ○講義 「精神障害の理解①統合失調症、気分障害」 「精神障害の理解②発達障害、高齢者精神疾患」 (精神保健福祉センター 所長 原田 豊) ■2月19日(金) ○事例報告 「利用者や家族への対応、関係機関連携等の課題から」 (西伯病院) ○意見交換 ○講義 「精神科訪問看護の実践において大事にしたいこと」 (西伯病院)	精神科病院及び訪問看護ステーションで、精神科訪問看護に携わる職員	オンライン		1		19					20
精神障がい者地域移行・地域定着支援関係者オンライン研修①	令和4年 2月1日 (火)	■講義『障害特性の理解及び具体的な支援の仕方①～⑧』 講師 精神保健福祉センター 所長 原田 豊	関係機関(相談支援事業所、医療機関、行政等)	オンライン	0	3	0	4	0	33			40

研修会・講習会等の名称	開催年月日	内容・講師	対象	場所	参加人員									
					保健所	市町村	福祉事務所	医療施設	介護老人施設	障害者支援施設	社会福祉施設	その他	計	
精神障がい者地域移行・地域定着支援関係者オンライン研修②	令和4年3月11日(金)	① 行政説明 ② 地域移行支援・自立生活援助・地域定着支援制度について ③ 相談支援事業所の支援の流れ、他機関との連携 ④ 地域定着事例 ⑤ モデル事業「多職種・多機関連携による地域連携体制整備事業」について ⑥ 実践報告 ピアサポーターの活動について ⑦ 質疑応答・総括	関係機関（相談支援事業所、医療機関、行政等）	オンライン	0	4	0	4	0	23	0	0	0	31
令和3年度第1回東部地区アディクション関係者ネットワーク研究会	令和3年6月18日(金)	■報告：「鳥取県アルコール健康障害・依存症対策推進計画」について（鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局障がい福祉課） ■報告：事例紹介「通院につながって断酒に取り組み始めた事例」（渡辺病院） ■情報交換 ①参加機関名と担当者の紹介 ②アルコール早期介入事業のリーフレットについて	東部地区の医療・保健・福祉、職域、教育、司法、警察、救急、消防、民間支援団体等アディクション問題の関係機関	精神保健福祉センター	1	0	0	3	0	3	0		13	20
令和3年度第2回東部地区アディクション関係者ネットワーク研究会	令和3年9月17日(金)	■報告：鳥取市保健所の家族教室の取組について（鳥取市保健所） ■報告：体験発表（鳥取県断酒会） ■質疑・意見交換	同上	オンライン	1	0	0	6	0	1	0		12	20
令和3年度第3回東部地区アディクション関係者ネットワーク研究会	令和3年12月17日(金)	■報告：薬物関連問題の現状と課題（鳥取県福祉保健部健康医療局医療・保険課） ■報告：薬物関連問題に関する救急搬送について（鳥取県東部広域行政管理組合消防局） ■体験発表（鳥取ダルク） ■質疑・意見交換	同上	オンライン	2	0	0	3	0	1	0	0	11	17

研修会・講習会等の名称	開催年月日	内容・講師	対象	場所	参加人員								
					保健所	市町村	福祉事務所	医療施設	介護老人施設	障害者支援施設	社会福祉施設	その他	計
令和3年度第4回東部地区アディクション関係者ネットワーク研究会	令和4年3月4日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ■報告：アルコール健康障害・薬物依存症・ギャンブル等依存症支援拠点機関の取組み（渡辺病院） ■報告：「発達障害と依存症～発達障害の理解と支援～」（精神保健福祉センター 所長 原田 豊） ■質疑・意見交換 	同上	オンライン	0	0	0	5	0	0	0	15	20
令和3年度SAT-G実施者向け研修会	令和3年6月11日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ■講義及び動画視聴「ギャンブル障害の基礎知識」「SAQT-Gの基礎知識」「SAT-Gの使い方」（島根県立心と体の相談センター） 	保健所、市町村、関係医療機関のうち、今後SAT-Gの実施を予定、又は検討している機関	オンライン	4	1	0	3	0	0	0	2	10
自死対策担当者研修会	令和4年3月14日(月) ※自治体向け相談対応職員オンライン研修として開催。	<ul style="list-style-type: none"> ■講義及び質疑応答「自死対策と、コロナ禍におけるメンタルヘルス」（精神保健福祉センター 所長 原田 豊） 	市町村及び保健所保健師等	オンライン		3	1					5	9

16 広報普及状況（令和4年3月31日現在）

（単位：回、人）

区 分	延回数	対象者延人数
講演会等	32	889
出版物作成	0	0
教育教材貸出	2	2
その他	0	0
計	34	891

17 精神保健福祉相談の受付状況（令和4年3月31日現在）

（単位：件）

区 分	年度内新規 件数	繰越件数	延件数
所内相談	289	342	3270
所外相談	24	8	53
電話相談	673	172	3750
計	986	522	7073

18 新規所内相談の実施状況

（1）年齢別、性別状況

（単位：人）（令和4年3月31日現在）

区 分	12才 以下	13～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70才 以上	不詳	計
男	5	24	41	43	19	17	8	5	3	165
女	6	27	26	26	19	11	5	2	2	124
計	11	51	67	69	38	28	13	7	5	289
構成比(%)	4%	18%	23%	24%	13%	10%	4%	2%	2%	100%

（2）地域別状況

（単位：人）（令和4年3月31日現在）

地域	鳥取市保健所 管 内	倉吉保健所 管内	米子保健所 管内	県 外	不 詳	計
人数	249	17	4	10	9	289

（3）相談内容別状況（単位：人）（令和4年3月31日現在）

相談内容	精神保健福祉相談	再 掲	
		思春期	酒 害
男	142	21	2
女	94	30	0
計	236	51	2

(4) 処遇状況

(単位：件) (令和4年3月31日現在)

処遇	他機関紹介	継続指導	助言経過観察	来所予約	来所勧奨	その他	計
件数	5	140	95	9	3	37	289

19 新規所外相談者の地域別状況 (単位：人) (令和4年3月31日現在)

地域	鳥取市保健所管内	倉吉保健所管内	米子保健所管内	県外	計
訪問指導	0	0	0	0	0
その他	45	1	6	1	53
計	45	1	6	1	53

20 新規電話相談の実施状況

(1) 年齢別、性別状況

(単位：人) (令和4年3月31日現在)

区分	12才以下	13~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70才以上	不詳	計
男	6	38	59	41	28	21	19	13	107	332
女	4	45	39	33	30	24	8	10	147	340
計	10	83	98	74	58	45	27	23	254	672
構成比(%)	1%	12%	15%	11%	9%	7%	4%	3%	38%	100%

(2) 地域別状況

(単位：人) (令和4年3月31日現在)

地域	鳥取市保健所管内	倉吉保健所管内	米子保健所管内	県外	不明	計
人数	278	43	81	22	248	672

(3) 相談内容別状況 (単位：人) (令和4年3月31日現在)

相談内容	精神保健福祉相談	再掲	
		思春期	酒害
男	297	30	5
女	296	44	0
計	593	74	5

(4) 処遇状況

(単位：件) (令和4年3月31日現在)

処 遇	助言指導	来所予約	他機関紹介	継続指導	来所勧奨	終了	その他	計
件数	352	199	1	16	7	44	53	672

2.1 組織育成の状況

(単位：人) (令和4年3月31日現在)

名 称	対 象	対象者延人数
家族会	県精神障がい者家族会連合会	13
精神保健福祉協会	心の健康フォーラム(オンデマンド配信)	409
いのちの電話	いのちの電話	253
発達障がい児・発達障がい者の親の会	らっきょうの花、ラビットの集い 等	63
精神障がい者当事者自助グループ	精神障がい者当事者自助グループ	94
精神障がい者支援団体	ベストフレンド 等	40
計		872

2.2 自立支援医療(精神通院医療)・精神障害者保健福祉手帳交付判定の状況

(単位：件) (令和4年3月31日現在)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
精神通院医療	785	594	574	545	434	458	550	566	449	382	493	528	6,358
精神障害者保健福祉手帳	195	171	173	179	160	154	190	196	153	131	182	174	2,058

2.3 鳥取県精神医療審査会における審査状況

(単位：件) (令和4年3月31日現在)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療保護入院届	91	99	113	102	97	104	99	91	97	99	82	100	1,174
定期報告措置入院		1	1	1			1	1			1		6
定期報告医療保護	39	49	40	43	46	53	43	45	53	53	29	49	542
退院請求措置入院		2											2
退院請求医療保護	2	2			1						1		6
処遇改善措置入院													0
処遇改善医療保護	1									1			2
計	133	153	154	146	144	157	143	137	150	153	113	149	1,732

2.4 主な施設の整備状況調べ 該当なし

○ 意見、要望等 なし

